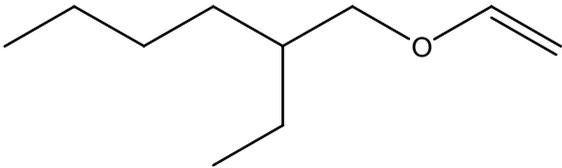


既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成19年12月21日開催)

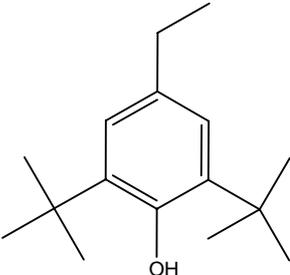
官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
2-372 2-575	103-44-6	2-エチルヘキシル=ビニル=エーテル	二監相当		1
3-540	4130-42-1	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-エチルフェノール	二監相当		3
4-362	2173-57-1	2-ナフチルイソブチルエーテル	二監相当		5
4-324	479-27-6	1,8-ジアミノナフタリン		三監相当	7
2-365	544-01-4	イソアミルエーテル		三監相当	9
5-1917	2465-27-2	ベイシック エロー-2		三監相当	11
3-608 9-1199	25013-16-5	t-ブチル-p-ヒドロキシアニソール		三監相当	13
3-4511	85068-29-7	3,5-ビス(トリフルオロメチル)ベンジルアミン	二監相当 【告示済み】	三監相当	15
3-78	118-69-4	2,6-ジクロロトルエン	二監でない 【審議済み】	三監相当	17
3-540	1879-09-0	6-tert-ブチル-2,4-キシレノール	二監相当 【審議済み】	三監相当	20
2-1687	556-61-6	イソチオシアン酸メチル	二監相当 【告示済み】	三監相当	23
3-502	4286-23-1	4-(1-メチルエテニル)フェノール	二監相当 【告示済み】	三監相当	25

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-372,2-575	CAS No.	103-44-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称： 2-エチルヘキシル=ビニル=エーテル</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.9%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 19.5 μ g/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 9.77 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 39.1 μ g/plate (TA98 : 19.5 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 156 μ g/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 78.1 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 313 μ g/plate (TA98 : 156 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μ g/plate (WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.9%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.57mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.57mg/mL +S9mix 群 : 1.57mg/mL 24 時間処理群 : 1.57mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : オリブ油	
	純度	99.9%	
	用量	3 用量(8, 30, 125 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験(1000 : ♂5/5・♀5/5、500 : ♂3/5・♀2/5)	
	NOEL	8 mg/kg/day	
	推定根拠	<p>血液生化学的所見(ALP \uparrow : 30 以上♂・125♀) 相対重量(肝 \uparrow : 30 以上♂・125♀) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 30 以上♂・125♀)</p>	
	他の毒性	<p>尿検査(潜血 \uparrow : 125♂) 血液生化学的所見(Cho \uparrow・PL \uparrow : 125♂♀) 相対重量(腎 \uparrow : 125♂、精巣 \uparrow : 125♂) 組織学的所見(腎-尿細管上皮好酸性小体 : 125♂、 肝-肝細胞単細胞壊死 : 125♂♀)</p>	
回復性	肝 \uparrow 、精巣 \uparrow		

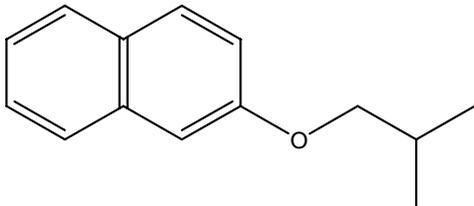
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL8mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-540	CAS No.	4130-42-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：2,6-ジ-tert-ブチル-4-エチルフェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.8%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 625 μg/plate (TA1537 : 156 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98, TA100 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA1535, WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) (確認試験) -S9mix 群 : 625 μg/plate (TA1537 : 313 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98, TA100 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA1535, WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA : 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>軽微な陽性 +S9 mix 群において構造異常及び数的異常のわずかな増加. 純度 99.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.344mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 0.085mg/mL (細胞毒性のため 0.075mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 0.055mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 0.075 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) (確認試験) +S9mix 群 : 0.065mg/mL (細胞毒性のため 0.055mg/mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%メチルセルロース水溶液	
	純度	99.0%	
	用量	3 用量(15, 60, 250 mg/kg/day)	

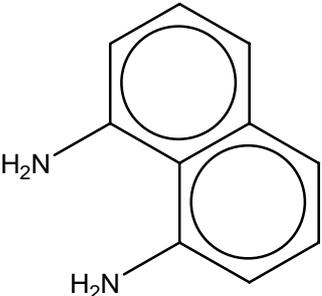
	死亡	予備試験(1000 : ♂4/5・♀3/5)
	NOEL	15 mg/kg/day
	推定根拠	絶対重量(肝↑ : 60 以上♂♀) 相対重量(肝↑ : 60 以上♂♀) 組織学的所見(甲状腺-濾胞上皮細胞肥大 : 60 以上♂・250♀、 肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 60 以上♂♀)
	他の毒性	血液学的検査(PLT↑・APTT↑・Fib↑ : 250♂♀、PT↑ : 250♂) 血液生化学的検査(Cho↑・TP↑ : 250♂♀、PL↑・Cl↓ : 250♀、Ca↑ : 250♂)
	回復性	PLT↑、Cho↑
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL15mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-362	CAS No.	2173-57-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称： 2-ナフチルイソブチルエーテル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.1 %。 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した予備試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群： 19.5 μg/plate (TA1537： 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA100： 最高用量で菌の生育阻害) 39.1 μg/plate (TA1535： 最高用量で菌の生育阻害) 313 μg/plate (TA98： 156 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA： 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群： 313 μg/plate (TA100： 78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害、 TA1535, TA1537： 156 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 1250 μg/plate (TA98： 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA： 2500 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 99.1 %。 溶媒 (脱水 DMSO-溶解)。 CHL/IU. 2.003 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群： 0.15 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度 (0.12mg/mL まで観察)) +S9mix 群： 0.0315mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度 (0.0252mg/mL まで観察)) 24 時間処理群： 0.15mg/mL (細胞毒性のため 0.12mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.1%	
	用量	3 用量(20, 100, 500 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験(1000： ♂4/5・♀5/5) 本試験(500： ♀2/10)	
	NOEL	20 mg/kg/day	
推定根拠	相対重量(肝↑： 100 以上♀・500♂、腎↑： 100 以上♂) 組織学的所見(結腸-粘膜上皮細胞核分裂像増加： 100 以上♂・500♀)		

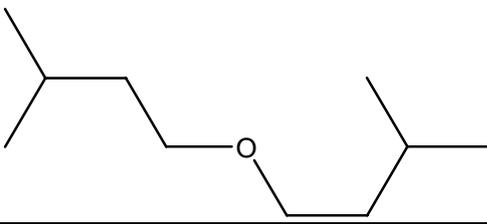
	他の毒性	<p>体重↓(500♂♀) 摂餌量↓(500♂) 一般状態(軟便・粘液便・水溶性下痢・流涎：500♂♀) FOB(自発運動量↓：500♂) 血液学的所見(RBC↓・Hgb↓・HCT↓・MCHC↓：500♀) 血液生化学的検査(Glu↓・ALT↑：500♂、TP↓・TG↑・Alp↑：500♀) 尿検査(尿量↑・尿浸透圧↓・尿Na↓・尿K↓・褐色尿↑・尿Bil↑：500♂♀、 尿Cl↓・尿Na総排泄量↓・尿K総排泄量↓：500♂) 相対重量(脾↑：500♂♀、副腎↑：500♂) 組織学的所見(脾—うつ血・色素沈着：500♂♀、 前胃—扁平上皮過形成：500♂♀、 前胃—出血：500♂、 前胃—浮腫・潰瘍：500♀、 腺胃—浮腫：500♀、 盲腸—粘膜上皮細胞好塩基化粘膜上皮核分裂像増加：500♂、 結腸—粘膜上皮細胞好塩基化：500♂♀、 結腸—出血：500♂、 肝—肝細胞好酸性化・小葉中心性肝細胞肥大：500♂♀、 前立腺—腺房萎縮：500♂、 精囊—腺房萎縮：500♂、 副腎(皮質)—血管拡張・空胞変性・壊死・ マクロファージ集簇・皮質肥大：500♂♀)</p>
	回復性	Glu↓、TG↑、軟便、粘液便、副腎—血管拡張・空胞変性・壊死・マクロファージ集簇
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL20mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-324	CAS No.	479-27-6
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1, 8-ジアミノナフタリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG(2003) 培養方式：振とう培養 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.050、0.10、0.20、0.40、0.80、1.6mg/L 実測濃度 0.026、0.065、0.16、0.36、0.73、1.4mg/L (0h) 定量下限値 (0.05mg/L) 以下 (72h) 0.016、0.038、0.079、0.13、0.19、0.14mg/L (0-24h 幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (設定値に基づく) =0.48mg/L 72hNOECr (設定値に基づく) =0.10mg/L (参考) 24hErC50 (実測値に基づく) =0.039mg/L ※ 24hNOECr (実測値に基づく) =0.016mg/L ※ ①試験実施者は、濃度の低下の原因として光分解の可能性が高いと考察している。 ②試験実施者は、藻類生長阻害は当該物質が残存している時期だけに見られることから、 分解生成物の毒性は親(当該)物質よりも小さいと推定している。(24時間後の親物質の 残留率は設定値の0.8~22%)。 ※ 本物質は藻類試験条件では不安定(光分解が予測される)であり、試験では、0-24 時間の実測平均値が得られている。また、試験開始 24 時間以降の藻類生長阻害が観察さ れない事から分解生成物の藻類に対する毒性は親物質ほど高くないと推察される。よって 本物質そのものの毒性を判断するには、0-24 時間における平均生長速度から算出される阻 害率と 0-24 時間の実測平均値より算出されるべきである。 なお設定濃度 0.80 及び 1.6mg/L 区のデータは、このばく露区で生長阻害だけでなく細 胞死があったと考えられる増殖パターン(藻類現存量の一時的減少)が観察されているた め、EC50 値の算出に当たっては使用しない方がよい。 なお、上記毒性値の算出方法は、24 時間観測時における藻類増殖が不十分(16 倍以下) であり、一般的な手法としてはならない。		

ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（遮光条件） 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.080、0.11、0.14、0.18、0.23、0.30mg/L 実測濃度 0.054、0.088、0.12、0.17、0.21、0.29mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=0.17mg/L</p>
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（遮光条件）、48 時間後に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 2.4、3.2、4.1、5.3、6.9、9.0mg/L 実測濃度 2.2、3.0、3.8、4.9、6.4、8.5mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=5.6 mg/L（図示法）※ （参考） 96hLC50（実測値に基づく）=5.4 mg/L（プロビット法） また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.8mg/L 群：異常呼吸（48hr 2/7、72hr 1/6、96hr 1/6） 4.9 mg/L 群：異常呼吸（48hr 3/7、72hr 1/7、96hr 2/6） 異常遊泳（動作の過敏）（72hr 1/7） ※ 試験実施者は図示法により毒性値を算出しているが、化審法 TG によればプロビット法が推奨される。</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.48mg/L、72hNOECr=0.10mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.17mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：850mg/L、350mg/L（実測値、Wskowwinv1.41）</p>

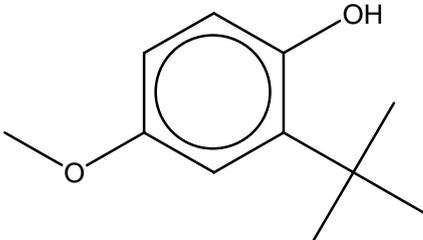
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-365	CAS No.	544-01-4
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称： イソアミルエーテル 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG(2003) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99% 試験濃度：設定濃度 5.0、7.1、10、14、20 [*] mg/L 実測濃度 0.77、1.2、1.6、2.4、4.4mg/L（時間加重平均値） [*] 試験液調製可能最高濃度 助剤：テトラヒドロフラン 100 μL/L 72hErC50（実測値に基づく）>4.4mg/L 72hNOECr（実測値に基づく）=1.2mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間後に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.50、1.0、2.0、4.0、8.0mg/L 実測濃度 0.48、0.95、1.8、3.3、6.6mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=2.3mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10mg/L 実測濃度 0.84、1.7、2.8、4.8、9.8mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=6.8mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 4.8 mg/L 群：異常遊泳（動作緩慢）（24hr 6/10、48hr 10/10、72hr 9/10、96hr 8/10） 異常遊泳（平衡感覚の消失）（96hr 1/10） 異常遊泳（表層遊泳）（48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10） 遊泳不能（72hr 1/10、96hr 1/10）</p>
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=6.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：不溶（試薬供給者提供情報）

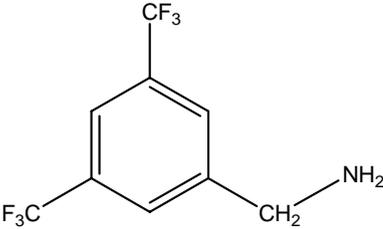
生態影響 判定根拠	芳香族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=4.6 mg/L であり、藻類生長阻害試験において 72hErC50=0.34mg/L、72hNOECr=0.026mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=6.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S61	0/30	—	2(μ g/L)
	底質	S61	0/30	—	0.7(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S62 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度: 1×10^4 mg/L SRC PhysProp Database				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-608、9-1199	CAS No.	25013-16-5
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称： t-ブチル-p-ヒドロキシアニソール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG(2003) 培養方式：振とう培養 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.32、1.0、3.3、11mg/L 実測濃度 0.094、0.25、0.73、2.4、7.8mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hErC50 (実測値に基づく) =5.2mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =0.25mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.50、0.80、1.3、2.1、3.3、5.2mg/L 実測濃度 0.51、0.81、1.3、2.0、3.3、5.3mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =2.3mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.7、2.2、2.8、3.6、4.7、6.2、8.0、10mg/L 実測濃度 1.5、2.0、2.6、3.4、4.6、6.2、8.2、11mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) =5.8mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.4 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (72hr 2/7、96hr 2/7) 4.6 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24hr 3/7、48hr 6/7、72hr 6/7、96hr 5/7) 異常遊泳 (底層遊泳) (24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7) 異常呼吸 (24hr 1/7、48hr 3/7、72hr 5/7、96hr 4/7) 遊泳失調 (24hr 1/7、48hr 1/7、72hr 1/7)		

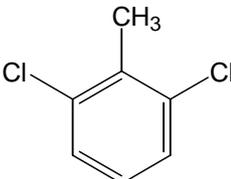
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：殆ど不溶（報告書） 212.8mg/L (25℃) (Wskowwinv1.41 による推定値)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-4511	CAS No.	85068-29-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成 14 年 12 月 26 日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 3, 5-ビス(トリフルオロメチル)ベンジルアミン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質相当【新規化学物質として審議済み】 ※試験結果は企業に帰属するものであるため非公開。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: 化審法 TG(2003) 培養方式: 振とう培養 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10mg/L 実測濃度 0.082、0.16、0.36、0.83、1.7、3.9、8.4mg/L (時間加重平均値) 助剤: なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 3.6mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.36mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。 ②収量法に関する記載を修正するよう指示している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: 化審法 TG 試験方式: 止水式 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10mg/L 実測濃度 0.97、1.8、3.1、5.3、10mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 48hEC50 (実測値に基づく) = 5.5mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6、10、18mg/L 実測濃度 0.54、0.95、1.6、2.9、5.2、10、19mg/L（算術平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=11mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.9 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 1/10） 5.2 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 2/10、96hr 10/10） 10 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 6/6、48hr 6/6、72hr 6/6、96hr 6/6）</p>
生態影響 判定根拠	<p>脂肪族アミンを構造中に有しかつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=5.5mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度： 727.3mg/L (25℃) (Wskowwinv1.41 による推定値)</p>

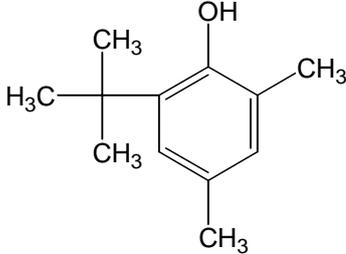
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-78	CAS No.	118-69-4
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。【審議済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 6-ジクロロトルエン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済 み】	陰性 純度 99.6 %。溶媒 (DMSO-溶解)。プレート法。 5000 μ g/plate まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA。 (本試験 I) -S9mix 群：150 μ g/plate (75.0 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：600 μ g/plate (TA100, TA1535：300 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1537, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：150 μ g/plate (TA1537：75.0 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2 uvrA： 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：600 μ g/plate (TA98, TA1535, TA1537, WP2 uvrA： 300 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100：最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常 【審議済 み】	陰性 純度 99.6 %。溶媒 (DMSO-溶解)。CHL/IU。 0.16 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実 施。 -S9mix 群：0.033 mg/mL (細胞毒性のため 0.017mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.096 mg/mL (細胞毒性のため 0.048 mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.069 mg/mL (細胞毒性のため 0.035 mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.069 mg/mL (細胞毒性のため 0.035 mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox) 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.2%	
	用量	4 投与群(30, 100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与：30 mg/kg/day 生殖発生毒性：100 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性：組織学的所見(腎一好酸性小体：100以上♂) 生殖発生毒性：哺育行動↓：300 以上		

	他の毒性	<p>反復投与毒性：</p> <p>一般状態(自発運動↓・腹臥位・流涎：1000♂♀、半眼：1000♀) 体重↓(300以上♂・1000♀) 血液生化学的検査(Glu↓：300以上♂、Pi↑：1000♂) 相対重量(腎↑：300以上♂・1000♀、肝↑：1000♂♀) 組織学的所見(腎-近位尿細管空胞変性・脂肪変性：1000♀ 肝-小葉中心性肝細胞肥大：300以上♂♀、小葉中心性肝細胞 曇り硝子様変性：1000♂ 脾-褐色色素沈着：1000♂♀ 胸腺-萎縮：300以上♀ 精巣-限局性精細管萎縮：300以上♂)</p> <p>生殖発生毒性：-</p>
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。	
藻類生長阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法：化審法 TG(2006)</p> <p>培養方式：振とう培養（密閉系）</p> <p>純度：100%</p> <p>試験濃度：設定濃度 0.43、0.93、2.0、4.3、9.3、20mg/L 実測濃度 0.16、0.38、0.89、1.7、4.2、9.6 mg/L（幾何平均値、藻類接種無）</p> <p>助剤：なし</p> <p>48hErC50（実測値に基づく）= 1.8 mg/L 48hNOECr（実測値に基づく）= 0.16 mg/L</p> <p>①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。 ②密閉系の試験であり、0-72時間平均生長速度の変動係数が35%を超える（38%）ため、毒性値は0-48時間生長速度を用いて算出している。</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法：化審法 TG</p> <p>試験方式：止水式（密閉系）</p> <p>純度：100%</p> <p>試験濃度：設定濃度 0.18、0.32、0.46、0.68、1.0、1.8 mg/L 実測濃度 0.13、0.21、0.28、0.44、0.65、1.2 mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤：なし</p> <p>48hEC50（実測値に基づく）=0.38mg/L</p> <p>①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。</p>	

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10mg/L 実測濃度 0.59、1.1、2.0、3.2、5.5mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=2.3mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.0 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 5/10、48hr 6/10、72hr 6/9、96 hr 5/9） 異常遊泳（遊泳緩慢）（72hr 2/9、96 hr 1/9） 遊泳不能（横臥）（72hr 1/9、96 hr 2/9） 遊泳不能（横転（浮く））（96 hr 1/9）</p> <p>①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=17 mg/L、72h NOECb=2.8 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEC50=1.8 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.32 mg/L（開放系） 魚類に対する毒性として ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=6.4 mg/L</p> <p>※H4 環境庁実施（非 GLP 試験）。</p>				
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 48hErC50=1.8mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.38mg/L、及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.3mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/21	—	8~80(μ g/L)
	底質	S56	0/21	—	0.2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S57 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度： 18.5mg/L（25℃）SRC PhysProp Database</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-540	CAS No.	1879-09-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 【審議済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：6-tert-ブチル-2,4-キシレノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済み】	陰性 純度 98.5 %. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. 5000 μg/plate まで用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群 : 200 μg/plate (TA100, TA1537 : 100 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 200 μg/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (TA98, TA100, TA1535 : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 200 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 100 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 200 μg/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (TA100 : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1535, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常 【審議済み】	陰性 純度 98.5 %. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 0.15 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.033 mg/mL (細胞毒性のため 0.017 mg/mL まで観察) +S9mix 群 : 0.056 mg/mL (細胞毒性のため 0.028 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.033 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群 : 0.033 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox) 【審議済	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	98.5 %	
	用量	3 投与群(6, 30, 150 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 150 : ♀ 2/12	
NOEL	反復毒性 : 6 mg/kg/day 生殖発生 : 30 mg/kg/day		

み】	推定根拠	反復投与毒性： 血液生化学的検査(TP↑・Alb↑・γ-GTP↑：30以上♂) 相対重量(肝↑：30以上♂・150♀) 生殖発生毒性： 分娩中母体死亡、着床数↓：150
	他の毒性	反復投与毒性： 血液学的所見(Hct↓・Hgb↓・RBC↓・Ret↑：150♂) 血液生化学的検査(K↓：150♂) 絶対重量(肝↑・腎↑：150♂) 相対重量(腎↑：150♂♀) 組織学的所見(肝—小葉中心性肝細胞腫大：150♂♀、肉芽腫：150♀、有糸分裂・小葉中心性壊死・単細胞壊死：150♀ 腎—腎尿細管好塩基化：150♂、近位尿細管変性・腎乳頭 PAS 陽性顆粒沈着：150♀ 乳腺—増生：150♀ 副腎—空胞化：150♂♀ 生殖発生毒性： —
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験、染色体異常試験は陰性であるが、NOEL6mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG(2006) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.20、0.43、0.93、2.0、4.3、9.3、20 mg/L 実測濃度 0.17、0.38、0.83、1.8、3.9、8.5、19 mg/L（算術平均値） 助剤：なし 72hErC50（実測値に基づく）=6.0 mg/L 72hNOECr（実測値に基づく）=0.38 mg/L ①本試験は密閉系で実施されているが、生長速度の日間変動係数が 35%未満であったことから 72 時間の結果を採用した。	
ミジンコ急性遊泳阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式（密閉系） 純度：99% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.5、2.2、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.98、1.5、2.1、3.1、5.6、10 mg/L（算術平均値） 助剤：なし 48hEC50（実測値に基づく）=2.9 mg/L	

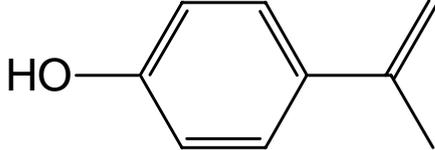
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式（密閉系）、48 時間後に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.40、0.63、1.0、1.6、2.5、4.0mg/L 実測濃度 0.35、0.56、0.90、1.5、2.3、3.8mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=2.5mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.90 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（72hr 1/10、96hr 1/10） 1.5 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 2/10、48hr 2/10、72hr 1/9） 異常遊泳（遊泳緩慢）（48hr 2/10、96hr 3/9） 異常遊泳（平衡失調）（96hr 1/9） 2.3 mg/L 群：異常遊泳（上層遊泳）（24hr 3/10、48hr 3/9、72hr 1/9、96hr 1/8） 遊泳不能（横臥）（24hr 7/10、48hr 6/9、72hr 8/9、96hr 7/8）</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=3.6 mg/L、72h NOECb=1.7mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEC50=5.6mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.32 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=4.4 mg/L <p>※H4 環境庁実施（非 GLP 試験）。</p>				
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.5mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H9	0/165	—	0.5(μ g/L)
	底質	—	—	—	—
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 H10 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度：29.6mg/L (25℃) SRC PhysProp Database 150 mg/L (25℃) LogKow 4.08 (MITI,Japan 1994)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1687	CAS No.	556-61-6
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: イソチオシアン酸メチル $\text{S}=\text{C}=\text{N}-$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成16年7月2日に告示済み。 農薬経口慢性毒性試験においてADIが0.0025mg/kg/dayであることから、化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 (密閉系) 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 0.020、0.033、0.054、0.089、0.15、0.24、0.40mg/L 実測濃度 0.0094、0.013、0.027、0.051、0.12、0.23、0.39mg/L (幾何平均値) 助剤: DMF 93mg/L 48hErC50 (実測値に基づく) =0.19mg/L 48hNOECr (実測値に基づく) =0.027mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は藻体への移行及び揮散が原因と考察している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 半止水式、24 時間後に換水 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 0.020、0.036、0.063、0.11、0.20mg/L 実測濃度 0.016、0.029、0.052、0.088、0.17mg/L (0-24h 幾何平均値) 助剤: なし 48hEC50 (実測値に基づく) =0.12mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種: ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法: OECD-TG203 試験方式: 半止水式、24 時間毎に換水 純度: 100% 試験濃度: 設定濃度 0.013、0.025、0.050、0.10、0.20mg/L 実測濃度 0.0099、0.021、0.041、0.082、0.17mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 96hLC50 (実測値に基づく) =0.12mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.082 mg/L 群: 異常遊泳 (動作の緩慢) (72hr 1/10、96hr 1/10)		

生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 48hErC50=0.19mg/L、48hNOECr=0.027mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.12mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.12mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度： 8.2g/L (20℃) The Pesticide Manual, Eleventh Edition, British Crop Protection Council(1997)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-502	CAS No.	4286-23-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年8月11日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 4-(1-メチルエチニル)フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames 【審議済 み】	陰性 純度>99%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群: 1600 μg/plate (WP2 uvrA: 800 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 800 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537 は 400 μg/plate 以上、 TA98 は最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群: 1600 μg/plate (WP2 uvrA: 800 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 800 μg/plate (WP2 uvrA 以外: 最高用量で菌の生育阻害) 再試験 (TA100, WP2 uvrA) -S9mix 群: 1600 μg/plate (WP2 uvrA: 800 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 800 μg/plate (TA100: 400 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常 【審議済 み】	陽性 D20 値=0.124mg/mL (-S9mix 群: 構造異常) ±S9mix 群で構造異常の誘発. 純度>99%. 溶媒 (脱水 DMSO-溶解). CHL/IU. 1.34mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群: 0.5mg/mL (細胞毒性のため 0.18mg/mL まで観察) +S9mix 群: 0.5mg/mL (細胞毒性のため 0.18mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒: 0.5%CMC-Na	
	純度	>99%	
	用量	4 投与群 (30, 100, 300, 400 mg/kg)	
	死亡		
	NOEL	30 mg/kg/day	
	推定根拠	組織学的所見 (前胃-扁平上皮過形成: 100 以上♀・300 以上♂ 前胃-境界縁扁平上皮過形成: 100 以上♂♀)	
	他の毒性	体重↓・摂餌量↓: 300 以上♀ 尿検査 (尿比重↓: 400 ♀、尿量↑: 300 以上♂・400 ♀) 血液生化学的検査(γ-GTP ↑: 300 以上♀・400♂) 絶対重量 (胸腺↓・卵巣↓: 400 ♀) 相対重量 (肝↑: 300 以上♂・400 ♀、腎↑: 400♂、胸腺↓: 400 ♀) 組織学的所見 (盲腸-粘膜固有層水腫: 400 ♀ 腎-近位尿細管上皮硝子滴増加・近位尿細管上皮好酸性小体増加: 400♂)	
回復性	前胃-扁平上皮過形成		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒: 0.5% CMC-Na	

【審議済み】	純度	>99 %
	用量	3投与群 (4, 15, 60 mg/kg)
	死亡	
	NOEL	60 mg/kg/day
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない。
	他の毒性	
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性であり、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.40、0.70、1.2、2.2、4.0、7.2mg/L 実測濃度 0.22、0.40、0.70、1.3、2.6、5.2mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 100mg/L 72hErC50 (実測値に基づく) =5.4mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =1.3mg/L</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.53、0.95、1.7、3.1、5.6、10mg/L 実測濃度 0.37、0.69、1.3、2.5、4.8、9.1mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 100mg/L 48hEC50 (実測値に基づく) =4.1mg/L</p>	
ミジンコ繁殖試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.24、0.43、0.77、1.4、2.5、4.5mg/L 実測濃度 0.16、0.29、0.53、1.0、1.9、3.5mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 100mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.53mg/L</p>	
魚類急性毒性試験	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 1.9、3.4、6.2、11、20mg/L 実測濃度 1.3、2.6、4.8、8.8、17mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 100mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) =9.2mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.6 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 1/10) 4.8 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10) 8.8 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 2/10、48hr 3/9、72hr 4/8、96hr 4/7) 遊泳不能 (24hr 1/10、48hr 1/9、72hr 1/8)</p>	

生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=9.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度： 不溶（報告書） 993.6mg/L（Wskowwinv1.41による推定値）